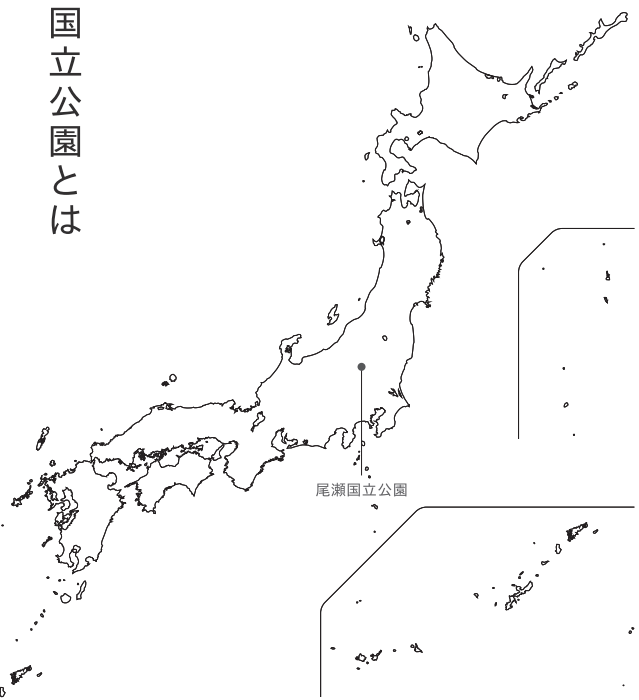


尾瀬国立公園

National
Parks
of Japan



国立公園とは



国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで34の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

連絡先一覧

環境省関東地方環境事務所
〒330-6018 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2
明治安田生命さいたま新都心ビル18F
| TEL | 048-600-0816 | FAX | 048-600-0521
| URL | <http://kanto.env.go.jp/>

檜枝岐自然保護官事務所
〒967-0525 福島県南会津郡檜枝岐村下ノ原867-1
| TEL | 0241-75-7301 | FAX | 0241-75-7302

片品自然保護官事務所
〒378-0415 群馬県利根郡片品村大字鎌田3885-1
| TEL | 0278-58-9145 | FAX | 0278-58-9150

尾瀬保護財団
〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1-1
群馬県庁15F
| TEL | 027-220-4431 | FAX | 027-220-4421

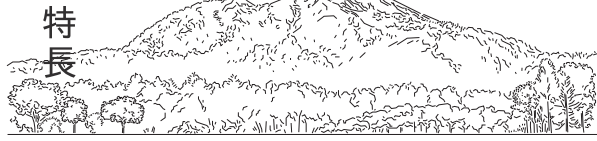
尾瀬国立公園サイト
<http://www.env.go.jp/park/oze/>



発行：環境省
発行年：2018年

※ 見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。

特長



名峰に囲まれ花咲き乱れる
日本最大の山岳湿地

尾瀬国立公園の歴史は古く、昭和9（1934）年に日光国立公園の一部として指定されていましたが、平成19（2007）年に日光国立公園から尾瀬地域を分割し、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山など周辺地域を編入して、29番目の国立公園として指定されました。尾瀬の名は、国民的愛唱歌「夏の思い出」でも広く知られており、本州最大の高層湿原である尾瀬ヶ原、噴火によって只見川の源流部が堰き止められてきた尾瀬沼、これらを取り囲む至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山などの山々が織りなす美しい風景を特徴としています。また、尾瀬は、過去に幾度も開発の危機にさらされてきましたが、多くの人々の努力によって今日でも貴重な自然が保たれており、日本の「自然保護の原点」とも呼ばれています。

【指定年月日】平成19年8月30日
【関係都道府県】福島県、栃木県、群馬県、新潟県

【面積】37,200ha



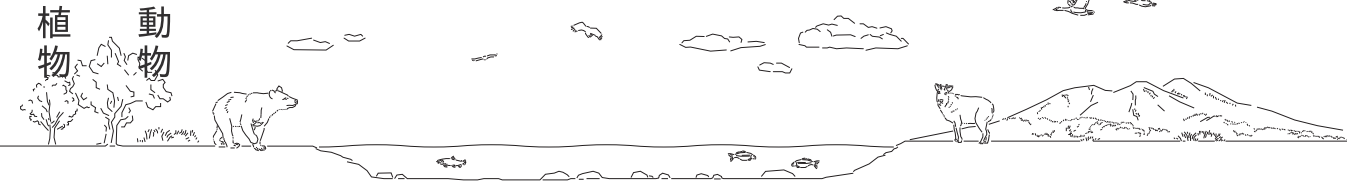
文化



関東地方と東北地方の接点にもあたる尾瀬には、鎌倉時代から群馬県片品村から尾瀬を経て福島県檜枝岐村へ通ずる街道が通っており、尾瀬を挟んだ物資・文化の交流が行われていました。沼田市と会津若松市を結ぶこの街道は、群馬側では会津街道、福島側では沼田街道と呼ばれ、沼田城から尾瀬沼を経て鶴ヶ城に至る全長約180kmに及ぶ重要な街道で、檜枝岐及び片品村戸倉には関所が設けられていました。また、幕末の戊辰戦争の際には大江湿原に会津軍が駐留し、戸倉で征討軍と会戦しており、大江湿原には当時築いた土塁が今でも残されています。当時の街道の面影を残すのは、七入から沼山峠、大江湿原、尾瀬沼、三平下を通して一ノ瀬に至る登山道の一部で、特に道行沢の渓谷沿いの道は新緑や紅葉の時期がおすすめです。また、古くから独自の文化が形成されてきた地域でもあり、特に檜枝岐村で受け継がれる檜枝岐歌舞伎は260年以上の歴史を持つ農村歌舞伎で、その舞台は国の重要有形民俗文化財にも指定されています。



植物
動物



―― 尾瀬地域の植生 ――

海拔約1,000mから2,360mまでの間にブナを中心とした山地帯、オオシラビソ、トウヒ、ダケカンバなどが生育する亜高山帯、ハイマツの生育する高山帯が見られるほか、地形や気候などの影響による湿原植生、掘水林、お花畑などが見られます。

―― 周辺の植生 ――

北部の会津駒ヶ岳周辺、東部・南部の鬼怒沼山、帝釈山、田代山周辺にもブナやオオシラビソを主体とする森林帯や山頂部に見られる湿生草原（雪田植生）が形成され、全般的に共通性の高い植生が形成されています。

―― 多様な植物種 ――

尾瀬地域は、北方系（主に氷河期の遺存種）／南方系（氷河期以降に南方から侵入した種）、太平洋型（降雪などの影響をあまり受けない植生が成立するエリア）／日本海型（降雪などの影響を受けた植生が成立するエリア）、それぞれの植物が生育するエリアの接点に位置しています。このため、植物相も多様で、国内で確認されているシダ以上の高等植物種の1割強にあたる116科938種の生育が確認されています。また、「原産植物」（尾瀬で初めて見つけられた植物）が19科42種類、「特産種」（尾瀬



池床に咲くオゼコハネ（7月）

林床に咲くシラネアオイ（6月）

自然保護

取り組み



―― 開発計画からの保護 ――

尾瀬ヶ原では、明治時代から只見川源流部の豊富な水資源を活用した電源開発（水力発電）の構想があり、第二次世界大戦後には具体的な開発計画も発表されました。これに対して、昭和24年に学識者・文化人・山小屋関係者らで結成された「尾瀬保存期成同盟」（現在の日本自然保護協会の前身）などの熱心な自然保護活動によって開発計画は中断され、尾瀬の貴重な自然は守られることになりました。

―― 自然保護の原点 ――

尾瀬はその後も昭和30年代以降の利用者増加による植生破壊やゴミの放置、昭和40年代の道路開発計画などの新たな問題が生じました。しかし、熱心な自然保護活動や植生回復、ゴミ持ち帰り運動、マイカー規制などの取り組みが行われ、尾瀬の自然は守られてきました。こうした取り組みは、尾瀬ではじめて行われ、全国的に広まったものもあることから、尾瀬はわが国における「自然保護の原点」とも呼ばれるようになりました。



昭和30年代ころの尾瀬ヶ原、尾瀬保護財団提供

―― 公園設備の整備と自然環境の保全 ――

尾瀬を訪れた人々が安全に、そして快適に自然環境とふれあうことができるよう、公園計画に基づき、園地・野営場・木道・公衆トイレなどの利用設備の整備を行っています。また、自然景観を保護し、豊かな生物多様性を守るため、動植物の保護、景観保全、調査などの取り組みを行っています。

―― 公園利用の適正化 ――

貴重で繊細な自然環境を保全し、将来世代に引き継ぐために、利用の現状を踏まえ、利用の適正化を図る手法などについて検討するとともに、安全で快適な利用の確保の方策について調査研究を行っています。その一環として、福島県御池～沼山峠間、群馬県津奈木橋～鳩待峠間、大清水～一ノ瀬間でマイカー規制を実施し、国立公園へのアクセス時の車両混雑の回避と排ガスによる自然環境への影響を低減しています。

―― ニホンジカ対策 ――

近年、ニホンジカが増え、各地で問題になっています。尾瀬でも1990年代半ばに生息が確認されて以来、湿原をはじめとする植生の攪乱が目立つようになり、本来の生態系に回復不可能な影響が及ぶ可能性が危惧されています。環境省では、関係機関と「尾瀬国立公園シカ管理方針」を策定し、連携を図りつつ、国立公園内での捕獲の実施や、より効果的な対策を行うための各種調査等を行っています。

国立公園の利用上のマナー

多くの方々に楽しく利用していただくために、国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守ってください。

- ゴミを捨ててください
- 動物を獲らないでください
- 花や植物を採らないでください
- 歩行中禁煙
- 野生動物に餌を与えないでください
- たき火は指定の場所で行いましょう

・尾瀬は尾瀬国立公園に指定されているほか、文化庁指定の特別天然記念物に指定されており、林野庁指定の保安林もあります。国立公園の特別保護地区では、全ての動植物の採集が禁止されているほか、枯れ木を拾うことも法律で禁じられています。枝にするための枝を拾うこともできませんので、ご注意ください。

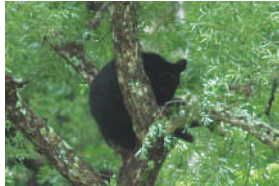
・湿原生態系はぜい弱なため、木道から外れて湿原の中に入らないでください。

・尾瀬にはゴミ箱がありません。自分で出したゴミは、自分で持ち帰りましょう。

・尾瀬のトイレはチップ制です。尾瀬の環境を守るために、たくさんの方がかかっていますので、1回100円程度の協力金をお願いします。

・尾瀬にはツキノワグマが生息しています。お邪魔するのは、私たち人間の方です。クマ鈴を鳴らして歩き、クマに自分の存在を知らせましょう。また、クマに出会った場合、その場をゆっくり立ち去ってください。カメラのフラッシュを焚くなどして刺激を与えることはやめましょう。

・尾瀬では指定のキャンプ場以外での野営はできません。また、尾瀬沼キャンプ場のほか、尾瀬の山小屋は全て事前予約制です。十分な装備と入念な宿泊計画を立てた上で入山して下さい。



ツキノワグマ



ニホンカモシカ



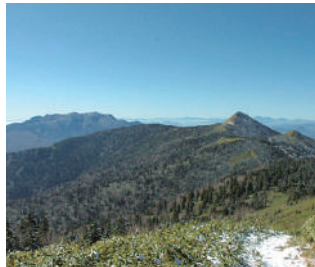
オコジョ（冬毛）



ハッチョウトンボ



ハコネサンショウウオ



笠ヶ岳と上州武尊山
コース概要：入山口（鳩待峠）から5時間半

笠ヶ岳は、至仏山の南に位置する標高2,057mの山です。山頂へは鳩待峠から至仏山に続く登山道の途中オヤマ沢田代から分岐した道を進みます。登山道周辺にはお花畑が広がり、山頂からは至仏山、燧ヶ岳のほか、遠く上州武尊山など360度の眺望が楽しめます。



至仏山からみた尾瀬ヶ原
コース概要：入山口（鳩待峠）から6時間

至仏山は、尾瀬ヶ原の西端に位置する標高2,228mの尾瀬を代表する山です。山体が蛇紋岩からなるため、登山道沿いにはカトウハコベ、ホソバヒナウスユキソウ、オセソウなどの希少な蛇紋岩植物が見られ、山頂付近からは尾瀬ヶ原が見渡せます。



キンコウカ - 7月 -
コース概要：入山口（鳩待峠）から5時間以上

アヤメ平は、尾瀬ヶ原の南側の緩やかな広い尾根上に広がる湿原です。標高が高いため雪解けが遅く、花が短期間に集約されて咲き、特に7月から8月に咲くキンコウカの群生は見事で、まさに「天上の楽園」といえます。



尾瀬沼湖畔の草紅葉と燧ヶ岳 - 10月 -

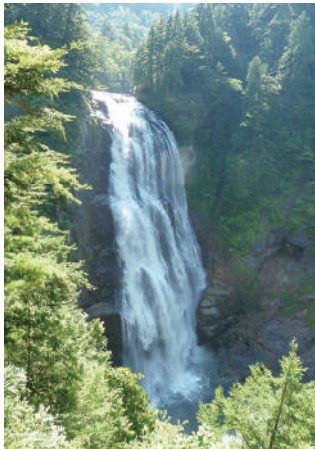


ニッコウキスゲ - 7月 -

尾瀬ヶ原に整備された木道 - 8月 -

尾瀬は、燧ヶ岳や至仏山など2,000m級の山々に囲まれた盆地状の地形で、東側の標高1,600m付近に位置する尾瀬沼や西側の標高1,400m付近に広がる尾瀬ヶ原一帯を指します。尾瀬沼周辺や尾瀬ヶ原の湿原には木道が整備され、初夏から始まるシーズンを通して、様々な高山植物や、季節ごとに変化する景色を楽しむことができます。特にミズバショウ（6月初旬-中旬）、ニッコウキスゲ（7月上旬-中旬頃）が群生する姿や、草紅葉（9月下旬-10月中旬頃）によって広大な湿原が黄金色に染まる姿は圧巻で、毎年多くのハイカーを楽しませてくれます。

コース概要：入山口（鳩待峠、大清水、沼山峠など）から日帰りまたは1泊2日



三条ノ滝
コース概要：入山口（御池、鳩待峠）などから1泊2日

尾瀬ヶ原から北に向かって流下する只見川源流部には平滑ノ滝、三条ノ滝の対照的な2つの滝があります。上流の平滑ノ滝は、長さ約500mの1枚の花崗岩を滑るように流れます。一方、その下流にある三条ノ滝は、尾瀬に降った雨水が全てここに集中するため、落差約100mを一気に轟音を立てて流れ落ち、展望台からはその姿を間近でみる事ができます。



燧ヶ岳山頂から尾瀬沼 - 9月 -



熊沢田代 - 8月 -

燧ヶ岳は標高2,356mで、至仏山と並び尾瀬を代表する東北最高峰の成層火山です。山頂付近からは尾瀬沼や尾瀬ヶ原を見渡すことができ、国内有数のブナの原生林が広がる山麓付近では、貴重な生態系が育まれています。

コース概要：入山口（御池、大清水など）から6時間以上



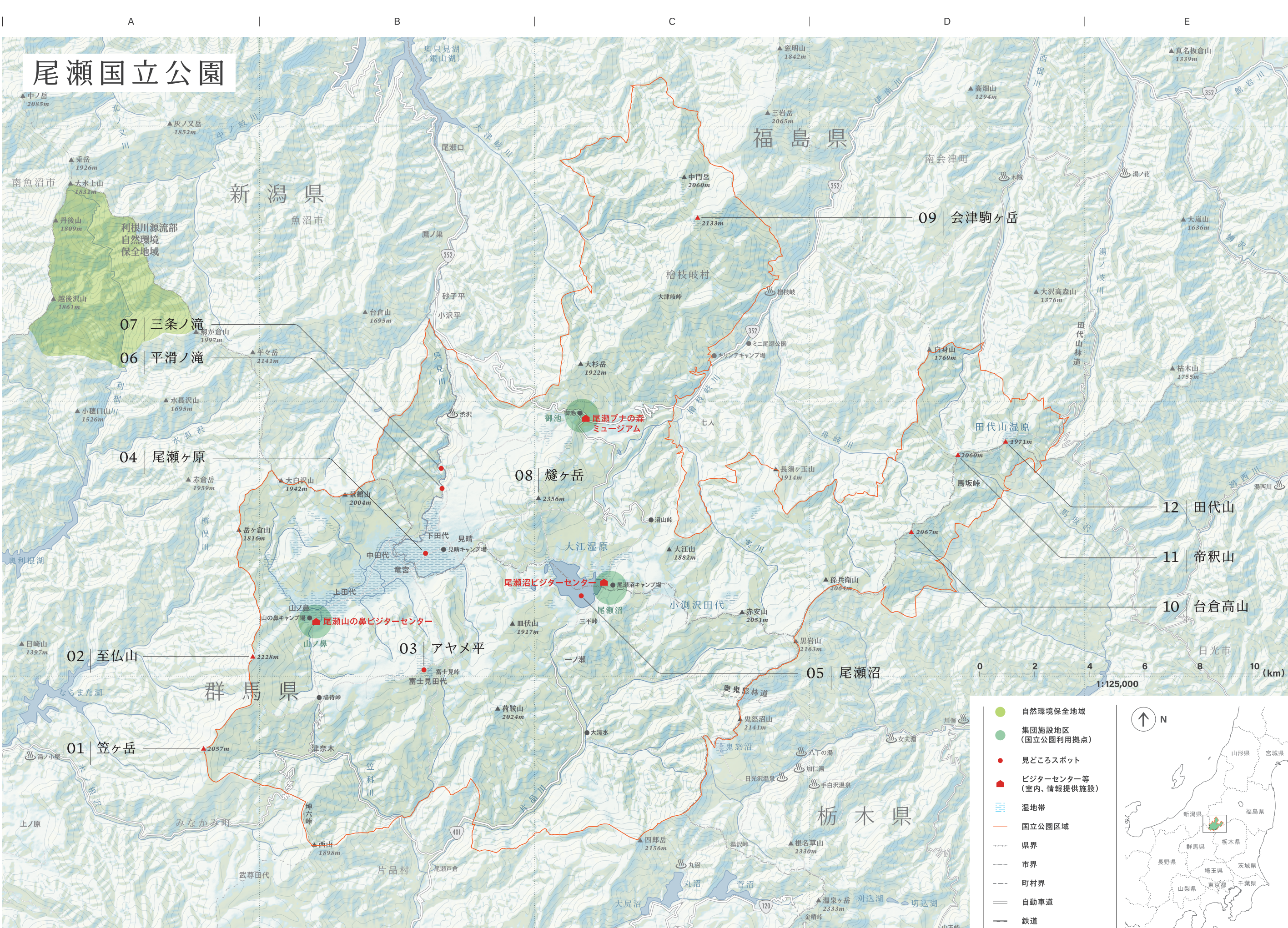
会津駒ヶ岳から尾瀬方面 - 9月 -



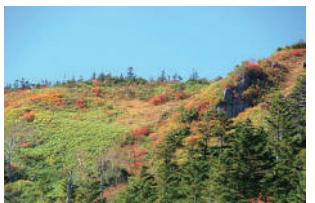
会津駒ヶ岳の池塘

会津駒ヶ岳は標高2,132mの会津を代表する名山です。雪解けが進む7月頃に山頂付近に駒大池が現れ、周辺にはハクサンコザクラが群生します。また、中門岳に延びるなどらかな稜線上には池塘が点在し、遠く広がる越後や北関東の山並みと湿原の雄大な自然のコントラストを楽しむことができます。

コース概要：入山口（滝沢、キリンテ、御池）から7時間以上



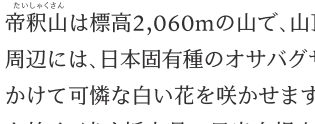
※詳細な区域確認等に当たっては、担当の環境省自然保護官事務所等に問い合わせください。



登山道からみた紅葉 - 9月 -



登山道沿いのオサバササ群落 - 7月 -



田代湿原からの眺望 - 9月 -

帝釈山は標高2,060mの山で、山頂に一番近い登山口である馬坂峠周辺には、日本固有種のオサバササが高密度に群生し6月から7月にかけて可憐な白い花を咲かせます。山頂からは、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳を始め、遠く栃木県の日光白根山や男体山が見渡せ、隣接する標高1926mの田代山の平らな山頂にできた田代湿原は、夏はキンコウカやチングルマの群生、秋は湿原を取り囲むナナカマドやツツジの紅葉と草紅葉のコントラストが見事です。一方、帝釈山から南の台倉高山に続く稜線には湿原が連なり、7月にタケヤマリンドウの愛らしい花が群生します。

コース概要：入山口（馬坂峠、鎌倉）から4時間以上

Information	施設案内
-------------	------



尾瀬の中では、尾瀬沼、山ノ鼻、見晴の3つの地区に、ビジターセンター、山小屋やキャンプ場が集中的に整備され、利用者の主要な拠点となっています。ビジターセンターでは、尾瀬の最新情報の提供や自然解説などを行っていますので、ぜひお立ち寄りください。



尾瀬沼キャンプ場（尾瀬沼東岸）
【予約電話】090-7064-4183（尾瀬沼ヒュッパ）※完全予約制

見晴キャンプ場
【問合せ】090-9749-1319（燧小屋）※先着順

山の鼻キャンプ場
【問合せ】090-6946-3302（至仏山荘）※先着順



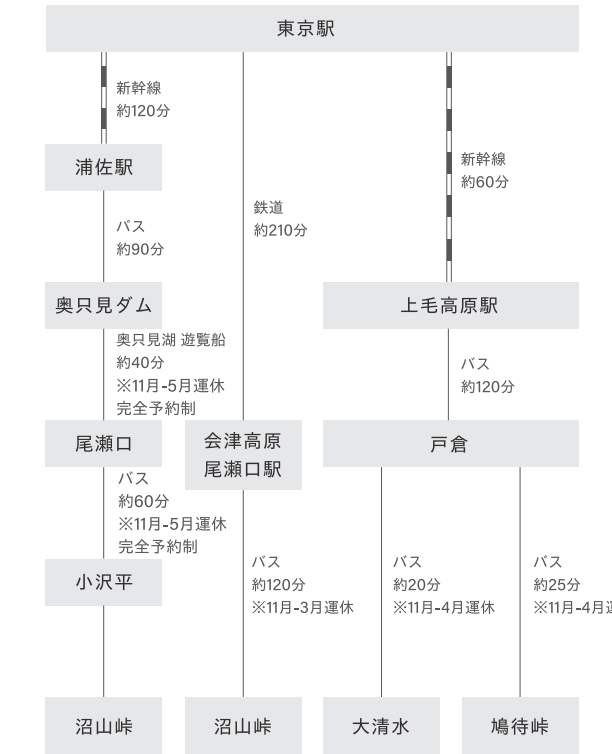
尾瀬沼ビジターセンター
〒967-0532
福島県南会津郡檜枝岐村
字燧ヶ岳1番地（尾瀬沼湖畔）
【開館時間】7:30-18:00
（尾瀬開山期間中無休）



山の鼻ビジターセンター
〒378-0411
群馬県利根郡片品村
大字戸倉字中原山898-9
【開館時間】7:30-18:00
（尾瀬開山期間中無休）

※開館時間などについて詳しくは各施設にお問い合わせください。

Access	交通アクセス
--------	--------



※アクセスルートは一例です。各区間の所要時間は目安です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。